

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(12月9日～12月15日)

2017年12月18日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・ロシア連合国家閣僚会合の開催(12月8日)
- フィリプ・モルドバ首相の訪問(12月11日, 12日)
- 中欧イニシアティブ(CEI)首相会合の開催(12月12日)
- オズル・トルコ科学産業技術大臣の訪問(12月14日)
- 日本がベラルーシに対する査証発給要件を緩和(12月15日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●モルドバ首相との会談

12月12日、ルカシェンコ大統領は、モルドバのフィリプ首相と会談した。同大統領は、要すれば両国の経済関係をソ連邦期の水準まで復活させる用意があるとし、モルドバ企業のベラルーシ進出を歓迎するとともに、ベラルーシ企業がモルドバに進出する余地があるようならすぐに対応する旨述べた。フィリプ首相は、国際的な問題が発生して非常に困難であった時期にベラルーシから支援を受けたとして謝意を表明した。

(12月12日付大統領サイト)

●第2回共和国学術会議総会への出席

12月13日、ルカシェンコ大統領は第2回共和国学術会議総会に出席した。同大統領の基調講演の概要は以下とおり。同会議では、2018年～2040年における科学技術国家戦略が採択された。

- ・過去5年間で革新的な科学技術製品の生産量が倍増した。2012年～2016年にかけて実施された国内電力システムの近代化により、電力輸入量は3分の1となり、発電用の燃料消費を約200万トン減少させ、大気への有害物質の排出量を大幅に削減した。
- ・リトアニアに対し、オストロヴェツ原発を争論の対象とするのではなく、共同利用を今一度考えるよう呼びかけ。ベラルーシは何よりもオストロヴェツ原発の安全に関心を抱いている。本件を

政治化するのではなく、将来に向けた建設的な対話が必要。

・心臓・外傷・がん・母子保護等の重要分野において、2016年だけで250以上の新たな医療技術が導入された。ベラルーシは臓器移植分野において世界で最も進んでいる国の一つとなっている。2007年から乳児死亡率が下がり、平均寿命が延び続けている。現在ベラルーシ市場での国産医薬品のシェアは価格ベースで56%以上に達しており、医薬品の輸出は生産量全体の27%に達している。

・ベラルーシは世界の軍事技術市場において、レーダー、ミサイルシステム、無人航空機、自動化システム等の分野で十分な競争力を有する。

・ハイクテク製品の生産の発展に向けた取り組みは不十分。経済全体に占めるハイクテク製品の生産は、2010年には2.5%であったが2016年でも約3%に留まっている。一方でそれほど技術力を必要としない製品の生産は、2010年には経済全体の30%であったが2016年には35%となっている。製品出荷全体のうちイノベーション製品の占める割合は、2016年で16%強、2017年でも17%程度であり、これを20%以上に引き上げなければならない。

・農業における労働生産性は欧州連合(EU)諸国の半分であり、最優先で引き上げなければならない。

・国立科学技術特区「ベルビオグラド(バイオ都市)」創設の必要性を詳細に検討するよう指示。
(12月13日付大統領サイト)

【内政】

●地方議会選挙立候補手続きの開始

12月10日、来年2月に実施される地方議会選挙の立候補者を確定する手続きが開始された。同手続きは1月8日まで行なわれる。候補者は政党及び政治団体が立てることができる他、署名を集めることにより個人で立候補することもできる。

(12月10日付ベラパン通信)

【外政】

●連合国家閣僚会合の開催

12月8日、ゴメリにおいて連合国家閣僚会合が開催された。同会合に出席したメドベージェフ露首相は、両国査証相互承認及び外国人による連合国家域内への入国に関する諸問題に関し、両国は近いうちに妥結に至るとの見通しを示した。また同首相によれば、連合国家は今後5年間で社会分野の法体系の統一を進めていき、就職と教育や医療サービスに関してベラルーシ人とロシア人に平等な権利を付与することになる。

(12月8日付ベラパン通信)

【外交】

●モルドバとの両国首相会談

12月11日、コビャコフ首相は当国訪問中のフィリップ・モルドバ首相と会談した。コビャコフ首相は、両国が外交関係を樹立25年となり、二国間協力は貿易・経済分野を含む広範な分野で前進している旨述べた。また同首相は両国がさらに連携できる分野として、モルドバでのトラクター組み立て事業の拡大、ベラルーシのトリバスの「ミンスク自動車工場(MAZ)」製の車両生産といった両国共同事業、モルドバでの道路建設へのベラルーシ企業の参加等をベラルーシとして期待している旨述べた。また同首相は、来年上半期のルカシェンコ大統領のモルドバ訪問に向けた準備が両国間で進められている旨述べた。

(12月11日付閣僚会議サイト)

●「EUと東方パートナーシップ」フォーラムの開催

12月11日、ミンスクにおいて「EUと東方パートナーシップ：諸アプローチと地域協力」フォーラムが開催され、クラフチェンコ外務次官が参加した。同次官は、ベラルーシはEU加盟を目指さないが東方パートナーシップには関心があるとし、モスクワはこうしたベラルーシの関心につき理解を示していると述べた。また同次官は、ベラルーシ・EU間の「パートナーシップの優先事項」文書の署名は2018年前半に行なわれるとの見通しを述べ、査証緩和協定に関しても根本に関わる意見の対立はないと指摘した。

(12月11日付国営ベルタ通信、ベラパン通信)

●ウクライナ問題に関するノルマンディー4か国大統領顧問級会談

12月11日、キジム駐ベラルーシ・ウクライナ大使は、9日にミンスクで開催されたノルマンディー4か国大統領顧問級会合につき、主に捕虜交換の問題が協議されたと述べた。同大使は、捕虜に関する諸問題は三者コンタクト・グループで実質的な協議が行なわれているため同会合の推移を見守りたいとしつつも、年内に交換が実現することを期待していると述べた。

(12月11日付ベラパン通信)

●エルサレムに関するベラルーシの見解

12月12日、ダブキユナス外務次官は、アリカト駐ベラルーシ・パレスチナ大使と会談した。同次官は、エルサレムの地位に関するベラルーシの立場に変更はないと述べるとともに、ベラルーシはパレスチナ・イスラエル間の紛争につき、関連する国連決議を含む国際法に基づいた政治・外交的手段による公正かつ長期的な解決を支持すると強調した。

(12月12日付外務省サイト)

●中欧イニシアティブ首相会合の開催

12月12日、ミンスクにおいて中欧イニシアティブ(CEI)首相会合が開催された。クレスティル＝レフラーCEI副事務局長は、2017年の議長国であった

ベラルーシが CEI の活動の調整と拡大に果たした貢献は大きかったとして謝意を表明した。コビャコフ首相は、2017 年を総括すると、欧州全体の発展により大きくまた効果的に協力するために CEI が重要な機構であることがよくわかったと述べた。同首相によれば、ベラルーシにとって CEI は、CEI が EU とともに実施している地域発展分野の諸プロジェクトをはじめとして、EU との相互理解を強めていくための補完的な手段となっている。

(12 月 12 日付国営ベルタ通信)

● CIS 事務局による 2017 年の総括

12 月 12 日、ミンスクの CIS 事務局は 2017 年の活動を総括するための常駐全権代表会合を開催し、マケイ外務大臣が参加した。同大臣は、これまでに実施された活動を評価しつつ、CIS にとって現代社会に適応していくことが急務となっていると指摘した。また同大臣は、様々なレベルでの政務協議の開催が、外務省にとって法律や情報、新しい脅威への対抗、国際機関との協力をはじめとする諸問題の調整の場になっているとし、今後もこのフォーマットを拡大していくべきであると述べた。

(12 月 12 日付外務省サイト)

●日本がベラルーシに対する査証発給要件を緩和

12 月 15 日、日本大使館は、来年 1 月 1 日からベラルーシ国民に対する査証発給要件を緩和すると発表した。短期滞在数次査証の対象者の範囲が拡大され、その最長の有効期間も 3 年から 5 年に延長される。また、自己支弁の場合、短期滞在査証の身元保証書等の提出書類が省略される。

(12 月 15 日国営ベルタ通信)

経済

【対外経済】

●ロシア経由での石油製品輸出

12 月 8 日、国営「石油化学コンツェルン(ベルネフチェヒム)」リャシェンコ総裁は、ベラルーシが石油製品の一部をロシアの港湾軽油で輸出する契約を締結した旨発言。同総裁は、同社の

事業が採算を重視することには変わりはないとした上で、間もなくウスチ・ルガ港経由での条件が同社に提示され、ロシアの顧客向けに本年 12 月から来年 1 月にかけて 72,000 トンが出荷される予定である旨述べた。同総裁はこの契約がベラルーシ側にとって有利なのかとの質問に対し、両国にメリットのある互恵的協力の手本のような契約であると述べた。

(12 月 8 日付ベラパン通信)

●ベラルーシ・モルドバ・ビジネスフォーラムの開催

12 月 11 日にミンスクで開催されたベラルーシ・モルドバビジネスフォーラムに、ベラルーシ企業 90 社以上、モルドバ企業約 30 社が参加し、ルスィ副首相及びフィリップ・モルドバ首相も同席した。

ルスィ副首相は、二国間貿易高は年々増加しており、今後も両国共同での組み立て事業の実施や機械製造業での新企業の設立の他、道路建設・トラクター生産・農業・ワイン生産等のあらゆる分野で将来性があると強調した。

フィリップ首相は今次ビジネスフォーラムが具体的な成果に至るに違いないとした上で、我々はビジネスを進める上でどのような問題があり、そうした障壁を取り除いて両国間の橋渡しをするために政府代表として臨席している旨付言した。

(12 月 11 日付閣僚会議サイト)

●トルコ科学産業技術省オズル大臣の訪問 セマシコ副首相との会談

12 月 14 日、セマシコ副首相はベラルーシ訪問中のトルコ科学産業技術省オズル大臣と会談した。同副首相は、両国間での共同事業が一定の成果を上げているとしつつも、産業・農業・科学の各分野での成果が両国の持つ可能性に見合うものではなく、こうした分野での協力を強化する必要がある旨強調した。

ヴォフク産業大臣との会談

同日、ヴォフク産業大臣との会談が行われた。

席上、貿易高の増加、産業協力、農業・情報技術・航空運輸の各分野で協力を進展させることにつき協議され、両国はオフロードダンプカー、トラクター、清掃車等のトルコへの輸出に向け、共同での取り組みを強化することで合意した。

両国イノベーションフォーラムの開催

同日、ミンスクでベラルーシ・トルコ・イノベーションフォーラムが開催され、ヴォフク産業大臣とトルコ科学産業技術省オズル大臣が出席した。ヴォフク大臣は、両国間には貿易高を大きく増大させる余地があるとした上で、トルコからの投資や技術の誘致、ベラルーシでの合弁企業設立に関心がある旨述べた。オズル大臣は、トルコはイノベーション技術の開発と産業への導入を大いに重視しており、ベラルーシと産業、科学、技術の各分野で協力するための余地が大いにある旨述べた。

(12月14日付国営ベルタ通信)

(了)